

【2022年度、№1】		(年間内部評価) 2月
Ⅲ 2022年度教育活動の重点目標		コメント
1. 学力の充実・向上		
(1) Google Classroomやフォームを利用した積極的な家庭学習指導を促進し、またGoogle MeetやZoomによるオンライン授業も活用し、より効果的かつ効果的な授業の実施を進めていきます。そのために、教員間での授業見学や教科内を中心とした相互交流を活性化させていきます。	4	Google Classroomやフォームを授業や各種講演の振り返りにうまく活用することができた。また自宅待機者へのサポートとして、iPad/Meet/Zoomを活用して授業のハイブリッド展開を進めることができた。
(2) 思考力を重視する学力観に基づき、定期考査とレポートなどの課題提出のバランスを追求し、適切な定期考査を提案します。	3	観点別評価と連動した適切な定期考査の作成を継続して検討している。
(3) 定期考査の作問力を向上させるために、教科内での検討機会を設けて定期考査を通じての学力向上を目指すとともに、考査の厳正なる実施のために、より現状に適した定期考査のあり方を提案します。	3	教科内での検討、振り返りからよりよい作問を継続して研究している。
(4) 中学1年生から高校1年生までの4学年では3観点からの評価方法の検討を進め、定期試験の点数のみによらない、授業への主体的な取り組みや思考判断力などを、客観的にまた総合的に評価することを継続して考えていきます。	3	これまでの問題点を検証し、今後も3観点からの評価方法の検討を進め、定期試験の点数のみによらない、授業への主体的な取り組みや思考判断力などを、客観的にまた総合的に評価することを継続して考える。
2. 学習の充実および多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択		
(1) 2021年度入試から開始された大学入学共通テストにおいて5教科7科目受験の国立希望者140名を目指します。	3	共通テスト受験者223名中、国立型134名受験。概ね目標を達成している。
(2) 本校の中間層が千葉大学で合格できるような共通テストで平均が千葉大学のボーダーライン以上の得点率を目指します。そのため、マークカードの利用や共通テスト対策講座を実施し、生徒にフィードバックします。	3	国立型受験者の平均得点率68.8%。千葉大のボーダーは概ね70～75%であることを考えるとやや物足りない。受験者が10名以上かつ得点率で70%を超えているのは、英語I、数学IIB、化学基礎、地学基礎、物理の5科目。
(3) 昨年に引き続きコロナ禍に影響を受けることのないよう、「学習を止めない」をテーマに、オンライン授業の研究を進め、カリキュラムに遅れが出ないよう授業を進めることを徹底します。同時にスタディサプリやスクールタクト等を併用し、自学自習が出来る環境を整えます。	4	covid-19の陽性もしくは濃厚接触者を対象に、随時オンラインで自宅から授業参加できるような体制を整えた。スクールタクトに関しては主に中学を中心に活用。スタディサプリは中1～高2まで全員、高3では希望者が加入。
(4) 英検受験を推進し、生徒の状況について、担任や学年団が把握し、助言できる環境を作ります。また、その他の外部検定試験についての研究を進めます。今年度は中1から高2まで全員でケンブリッジ英検を受験します。	4	実用英語技能検定の受験を随時推奨。外部検定利用入試へも役立っている。今年度から全学体制でケンブリッジ英検を実施。
(5) 高校1、2年生を中心に、キャリア教育を推進し、大学の志望学科などについての探求が進むような進路行事を検討します。	3	大学の模擬授業、国家公務員によるキャリアプラン講座、現役東大生による受験相談、理系女子講演会など進路選択の要因となるような様々な行事を企画。3月には卒業生講演会を実施予定。
(6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方法を検討し、イベントを実施します。	3	芝浦工大主催の理系女子座談会への参加を促したり、上記の理系女子講演会を実施するなどしたが、参加者があまり多くなく、今後の課題も見られた。
(7) オンラインを併用しながら様々な進路行事や面談などを実施し、生徒が自分の希望の進路を見出すうえでの支援を行います。	4	保護者面談では、対面や電話の他、ZOOMなどを利用したオンライン面談も選択肢の一つとして、面談希望者が気軽に面談できる環境を整えた。一方で教員側の負担が増えているのは今後の課題であろう。
(8) 面談や進路行事を通してカリキュラムやコース選択を提示し進路実現へとつなげます。	4	最低でも年3回の面談を実施し、生徒の様子をうかがうだけでなく、進路指導を実施することが出来た。学校長や、教頭、教頭補佐による面接練習なども実施した。
(9) 総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育むとともに、多様な入試方式への対応を促します。	4	高校1、2年次の探求活動や課題研究、様々な進路行事への参加を通して、多様な入試へ対応できる体制は整えているが、希望者に限定されているのが今後の課題である。
(10) 英語関連講座などを通して英語4技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。	3	英検対策講座に比べて4技能講座(ブラッシュアップ講座)の参加希望者が少なく、事前告知、実施時期など検討の余地を感じた。参加した生徒には好評なだけに満たない。
3. 生徒活動及び生徒指導の推進		
(1) 新柏駅や電車、バス乗車時のマナー向上への対策として、生徒の自治活動を支援するとともに対策を実行します。	3	新柏駅でのマナーアップ指導を行った。駅および周辺のマナーは以前より良くなっている様子だが、数回の苦情メールを頂戴した。生徒会、マナー向上委員会、交通安全委員会による生徒の自治活動は導き出せなかった。
(2) 文化祭をはじめとする学校行事や委員会活動等において、生徒の主体的な活動を引き出す工夫をします。	4	学校行事や委員会活動、LHR等において、生徒からの要望について教員と生徒が議論し、学校生活に生徒の意見が反映される機会をつくることができた。
(3) 制服の着用ルールを点検します。また、制服のジェンダーレス化について議論を進めます。	3	コートの異装は少なくなってきたものの、ネクタイのだらしないう着や第一ボタンをとめる指導について、HRや学年での指導が揃っていない。女子のスラックスについて、男子と同じ柄のモデルを製作し、現行を残しながら新たに追加した。高校女子の夏用ショートソックスについて生徒と話し合いを重ね、次年度6月より採用されることとなった。
(4) 新しい情報端末の使用規程に沿って、正しく行動選択ができるよう生徒の自治活動を支援します。	3	生徒会長から集金開催時に生徒に向け発信、ICT委員会がルール遵守やマナー向上についてポスター掲示を行うなどの自浄努力が行われたものの、望ましい行動選択に導くことができなかった。2月にICT委員会、生徒会、教員で改善策を話し合った。
(5) 地域に貢献する活動を立案し実践する機会を設けます。	4	5/5(祝)こどもの日、10/10(祝)スポーツの日にグラウンド解放企画「人工芝グラウンドであそぼう!」を実施。両日とも約80名の参加があり、様子は東京新聞に掲載された。次回は3/25(土)開催予定。
4 健康な学校生活の推進		
(1) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を勧誘します。養護教諭による保健指導、AED・心肺蘇生法・Eピンの講習会を実施します。	4	計画的に健康診断を実施し、治療や検査の指導を行なった。多くの教職員が接種できるよう、複数日を設定してインフルエンザ予防接種を実施した。また、感染症対策を講じながら各種講習会を実施した。
(2) 相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。教員向けの研修会や事例検討会を実施します。	4	教員対象の勉強会を3回(「自殺」「いじめ(重大事態を含む)」「ちょっと気になる子～HSPやLGBTQ他～)実施。事例検討会では「ケース会議」をテーマに意見交換を行った。「クオレ」では生徒、保護者、教職員に対して適切な支援を続けた。「保健だより」を定期発行して、生徒や保護者へ情報を提供した。
(3) いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見と再発防止に取り組む。	4	いじめを早期に発見するため、生徒・保護者に対する定期的な調査を実施するとともに、相談体制の整備、いじめ防止等に関する教職員の資質向上を目的とした教員対象の勉強会を実施した。12月に生徒指導対策会議を開催した。
5 ICTを活用した教育の推進及び業務のDX化		
(1) Google Classroom、Googleフォーム、Googleドライブを始めとしたGoogle Workspaceやスクールタクト、canva等の活用の研究を進めます。	4	校内での各種アプリケーションの理解と活用が進んだ。それぞれのアプリを用いた教育実践の共有が今後はより求められる。
(2) Google Workspaceなどを活用することで業務のDX化をより推進します。	2	いくつかの業務に関して化の提案はできたが、校内で改定案を納得していただけるだけのものを準備することはできなかった。
(3) ICTを主体的に活用できる生徒を育てます。授業時以外でもICT機器を適切に利用することを目指します。	3	生徒にとってICTの活用は当たり前ものとなった。一方でデジタルシティズンシップの観点からICTとどう付き合うかについての教育の研究は引き続き必要である。
6 読書習慣の形成とICT教育環境の推進		
(1) 生徒がより読書に意欲的に取り組むよう、図書室の閲覧環境などの改善をはかるとともに、委員会活動を活性化させ、様々な読書を促す取り組みを実施します。	4	今年度は、ビブリオバトルを対面実施。多くの生徒が参加することができた。
(2) ICT化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、より効果的な授業環境の整備を図ります。	4	単焦点プロジェクトを演習室にも設置するなど、ICT環境の整備を進めることができた。次年度への課題は中学棟の単焦点プロジェクトの入れ替えの検討である。
7「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進		
(1) 防災・危機管理の体制を再検討し、コロナ禍に影響を受けることのない災害時の避難連絡体制を構築します。また、日常から防災訓練を定着させ、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底を図ります。	4	3密を避けながら、迅速に避難訓練を行うことができた。また、防災備蓄品の充実等、計画的に行っている。
(2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。	4	様々な規制・制限の中で保護者懇親会や増穂祭など、PTA諸活動・学校行事への参加について徐々に進めるようになった。
(3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。	4	制限がある中で対面での式典や集会を実施することができた。生徒会役員による司会進行を行い、生徒会の活動の場を増やすことができた。
8 入試広報活動の充実・募集形態の研究		
(1) 学校説明会においてアドミッションポリシーを明確に示し、入試形態を簡潔に説明していきます。また、対面の説明会とオンライン説明会の併用や見学会など受験生のニーズに合った様々な説明会を企画実施していきます。	4	年間に中学で9回、高校で7回行われる学校主催の学校見学会と入試説明会において、学校の教育の特色や入試形態などを説明しました。また、秋には土曜日の午後学校見学会を企画し、受験生やその保護者の方に部活動の様子など生徒の活動を見学していただきました。
(2) 学校概要や教育の特色を簡潔に盛り込んだ学校案内とそのデジタル版を作成し相談会等で活用します。	4	5月に新しい学校案内を作成し広報活動に活用しました。また、合わせてデジタル版も作成し、外部での相談会で活用しました。
(3) 本校の教育の3本柱である「探究活動」「サイエンス教育」「グローバル教育」をはじめ「ICT教育」などの活動報告をわかりやすく具体的に外部へPRしていきます。	4	学校説明会の全体説明では、必ず本校の教育の3本柱はもちろんICT教育や学校行事、部活動などの生徒の活動を説明し、本校の教育をPRしました。
(4) ホームページやSNSを活用して、本校の教育の特色や中学・高校入試の情報などを発信し、受験生獲得に向けた広報活動に生かしていきます。	3	昨年まで停滞していたInstagramを再開し、HPのみならず、LINEやTwitterでも情報を配信しました。しかし、HPが見にくくとの指摘があり整理が次年度の課題となっています。
9 事務室によるハード・ソフト両面にわたる学校運営支援体制の強化 千葉県内における私立進学校としての地位確立、強化につながる本校の取組に事務室の観点で貢献します。		
(1) 理事会による校舎・施設等の将来計画を注視しながら、一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修をすることで、教育環境の維持・美化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する確かな判断を下します。	4	法人施設管理財部と連携しながら、ホール棟空調設備更新、クラブ棟修繕修繕をはじめ、校内各所の整備を計画的に実施しました。また、理事会からの指示を受け法人関連部門・設計会社・本校関係者による校舎建替えに関するワーキンググループが設置され、50周年を自途とした検討計画に参画しています。
(2) 学年主任会・教科主任会・グラウンドデザイン検討委員会との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連諸提案や要望に関する検討を迅速に行います。	4	学年主任会等の要請に基づく盗難対策としての女子更衣室ロッカー増設、グラウンドデザイン検討委員会等からの要請に基づく駐輪場の照明設置、体育科と連携したトレーニング室の整備など、校内各部署からの要請を受け、予算等の調整を行いつつソフト・ハード両面について取り組みました。
(3) ICT教育の基盤として導入を始めた教室の単焦点プロジェクトは、初期に導入した機材が5年を迎え不具合が増えてきたことから、授業運営に極力支障が無い様に代替機等を確保しつつ、今後の機器更新について検討を行います。また情報部や情報科と連携して情報教室のリプレイスに向けて準備を進めます。	4	情報部と協働しながら単焦点プロジェクトについては後継機の検討を行いました。情報教室リプレイスについても情報部と数学情報科と連携しながら2023年度への更新に向けて業者選定等の取り組みを行い、おおよその下準備を完了しました。
(4) 5年目となるスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めつつ、同時に第3期の申請に向けた取り組みも行います。	4	5年目となる第二期SSHについて、ベトナム海外研修の実施など、関連諸活動についてコロナ前のレベルに戻す取り組みを進めました。また、第三期申請に向けて事務的支援を行いました。
(5) 生徒の探究活動や本校のSSCⅢでおこなっている先取り授業の後継プログラムの開発における芝浦工業大学との連携について事務室が結核点となり、取組の促進などに寄ります。	3	研究部と連携しながらSSCⅢの生徒が芝浦工大の研究室で活動する環境整備を行いました。
(6) 法人担当部署とも連携のうえ、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた安心安全な環境構築に注力しつつ、校内での感染者発生時には速やかに行政とも連携を行えるようにします。	4	校内の感染者が増加する時期もありましたが、校内各部署と連携し行政等のガイドラインに則った対応を行うことができた。
10 生徒の理解が深まる授業・研修活動の充実		
(1) 高大接続改革や新たな学習カリキュラムの開始を踏まえ、今後求められる学力観の理解を深めます。それらを育成するための中高6年次に渡る系統的な学習法・評価方法の検討をすすめます。	3	高校1年が新教育課程となり、これまでの学習法や評価法の見直しははじかれた。これを通して、生徒が主体的に学習に取り組み、考察などを通して、発表する力の育成を重視するなど、より行動的な授業づくりに取り組んでいる。今後は、6か年を見通した上での継続的な取り組みが課題である。
(2) 将来を見据え、自分で考え適切な行動をできる生徒の育成に励みます。またその実現に向けた教育プログラムやシステムなども検討し、実行に移します。	4	新教育課程では、「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に向かう力」も重要な学習要素として位置づけられている。これらに関して、観点別で評価ができるように、課題や授業内容から評価の場を設定し、実行をした。また従来から取り組んでいる探究に関して、全員が取り組む場の設定を開始するなど、学校全体で取り組みを深めている。
(3) 教員各自が授業力向上をめざすとともに、授業ノウハウの共有や意見交換など、教科・学年などを中心に、そのための仕組づくりをすすめます。	4	観点別評価が開始されたこともあり、とくに授業担当者間で例年以上に打合せがもたれ、授業内容の精選がすすめられた。また各学年の状況は教科会などで確認・共有された。今年度は、夏休み中の授業評価の後も教科会を設定するなど、非常勤講師をまじえての話し合いの場を設定した。
(4) ICT機器を活用し理解が深まる授業づくりを推進するとともに、生徒のデバイスの有効活用する授業実践につとめます。	3	高校2年までスクールタクトを使用でき、パソコンを所有している環境が整い、よりICT機器を利用した授業展開を工夫する教員が広がっている。一方で、高校ではパソコンではなくスマホを使用する生徒が多いことから、デバイスの使い分けなどの課題が残っている。
11 SSH教育活動、教育研究の充実		
(1) 『Creative, Studious and Communicative(CSC)』創造力を発揮し、粘り強く取り組み、その成果を積極的に発信する～』に掲げる生徒像、身につける思考と行動、探究教育の目的を共有し、各実践を通して、これからの社会で活躍できる人材を育成します。	4	3年ぶりに対面で生徒探究発表会を開催し、探究教育に関わる教員数も増し、探究教育の環境が整いつつある。次期SSHに向けて、これからの社会で身につけるべき能力・育成する生徒像の教員間での理解・共有をはかり、個々の能力を伸ばす教育実践や授業を充実させるよう学校に向かいたい。
(2) GS/SS探究授業、World Day、総合的な探究の時間におけるこれまでの実践を振り返り、生徒が自らの能力を伸ばせる学校として、中高一貫教育カリキュラムの開発、改善に取り組めます。	4	総合的な探究の時間において全生徒対象の探究プログラムが導入された。GS/SS授業では、今年度も改善を図りながら約200名が研究に取り組んでいる。中学World Dayにおいても、大学や企業など外部と連携した取組が導入されている。
(3) CSCルーブリック評価を用いて、生徒自身が学習を改善し、教員が実践の振り返りと改善に活かすことのできる教育評価の研究に取り組めます。また、外部公開の研究発表、教科研究会を開催し、生徒の資質・能力を育むために教員間で気軽に見学、意見交換できる環境と、授業ノウハウの共有を推進します。	4	今年度は多くの教育関係者、保護者や来場し、多数の教員による研究発表、200名を超える生徒の研究発表が行われた。次年度に向けて、教科研究会をさらに活発に実施できるように行事予定を見直し、発表会においても近隣他校と連携し、地域の探究教育の拠点校を目指す。活用しているOSCRルーブリック評価であるが、高大で連携した評価基準の導入を検討したい。
(4) 芝浦工業大学、他大学の教員・大学院生と連携した高大連携・連携プログラムの開発と改善に取り組めます。また、探究指導の充実のために、卒業生入財バンクによるTAの活用を進めます。外部講師による講座や講演会を企画・開催し、生徒の意欲、能力の向上に取り組めます。	4	システム理工学部中口教授に中学World Dayでのワークショップ、GS/SS授業の指導をいただき、その他大学教員による特別講座、企業見学会を多く実施した。また、SSCⅢでは芝浦工大研究室と連携した課題研究を実施し、高大接続教育の検討を進めている。
(5) 外国人研究者による特別講座、千葉大学留学生との探究指導を含めた交流、各種国際発表会への参加により、グローバル人材の育成を図ります。SSH海外研修(感染状況によりオンライン交流)を実施し、ベトナムFPT高校との交流、高校生共同探究プログラムに取り組めます。	4	千葉大学留学生との研究発表、交流を行った。サイエンスダイアログでは東京大学の外国人研究者の講演会を実施した。SSH海外研修では、教ヶ月に渡り水質改善をテーマとしてベトナムFPT高校生徒と共同でオンライン国際共同探究を進め、生徒探究発表会にて発表した。次年度はさらにサイエンスプログラムとしてFPT高校生徒招聘を申請している。
(6) 実験・研究の実施に当たっては、従来からのゴーグル着用、安全実施報告書の事前提出に加えて、COVID-19感染対策としてのフェイスマスクや防護カーテン等の防護措置を必要に応じてとり、実施します。	4	大きな事故もなく、実験、実習を進めることができたが、引き続き安全に留意し、ゴーグル着用、実験の安全実施報告書の徹底に努める。中高生の研究発表に対する外部の研究者・大学教員の協力をいただくにあたり、指導・助言について事前に密に打合せを行い、効果的により良い指導となるよう検討する。
12 世界で活躍できるグローバル人材の育成		
(1) Well Beingを追求したグローバル教育を目指します。海外の経験・文化を通して、Resilience, Grit, Student Agencyを養います。	4	イギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカの夏短期留学ホームステイや1年間のアメリカ長期留学を通して、様々な文化に触れ、育った背景が異なる人ともコミュニケーションをとり、粘り強く平和的な取り組みができるようになった。生徒自身も自主性が育ち、言語を問わず、自ら進んで発言ができるようになった。また、オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学(UNSW)とパートナーシップ校提携をし、フアンダーションコースで奨学金の優遇措置を獲得。
(2) グローバル基準のオーセンティックな教育を実施します。教科書、4技能試験など、世界で通用するコミュニケーション能力を養います。	4	オーセンティックな教育を目指し、4技能試験ではケンブリッジ英検を始め、教科書もケンブリッジ出版を導入している。今、世界で何が起きている、自らが置かれている立場を考えながら、テキストのみならず、生のニュースなどを通して、生徒自身が自分の意見を持つと努力している。
(3) 持続可能な繋がる教育を目指します。AI時代に、生き抜く力を育てます。多様性を認め、クリティカル・シンキングをツールとしたリテラシーを身に付け、異文化交流に必要な能力を身に付けます。	4	デジタル機器を使いながら、自分なりのリテラシーを身に付けようとしている。すべてのネット上の情報を信じるわけではなく、自ら考えながら、客観的な判断力を養おうとしている。毎日新聞論説委員の元村有希子氏から「21世紀を生きる」というテーマで講演をいただき、生き抜く力を意識した。「リテラシー」留学JAPANにおいては、生徒のサポートをした。